

2018年度(平成30年度4月～9月) 事業報告書

2019年度(平成31年度) 事業計画書(案)

2018年(平成30年)11月18日

埼玉県ふじみ野市上福岡5丁目4番25号
埼玉県指定・認定特定非営利活動法人
ふじみの国際交流センター

代表者氏名 石井ナナエ

電話番号 049-256-4290



事業報告一覧.....	2	5 子どもの健全育成	
総括報告.....	3	5-1 国際子どもクラブ	11
1 外国人籍等市民の人権擁護と自立支援		6 外国人への緊急時対策 (2018年度は事業なし)	11
1-1 生活相談.....	3	7 まちづくりの推進	
1-2 シェルター.....	5	7-1 行政との協働事業	11
1-3 DV 講習会・生活相談勉強会.....	5	7-2 行政関係会議・関係事業	12
1-4 パソコン教室.....	5	8 NPO への助言・援助	
2 国際理解教育と国際交流の推進		8-1 NGO・NPO・協力ネットワーク	12
2-1 国際交流と国際理解講座.....	6	9 その他この法人の目的を達成するために必要な事業	
2-2 大学との協働.....	7	9-1 機関誌「ハローフレンズ」	12
2-3 語学教室.....	7	9-2 ホームページ・Facebook.....	13
3 多言語情報の収集と提供		9-3 FICEC 利用	13
3-1 多言語情報誌「インフォメーションふじみの」...7		9-4 総会・理事会・スタッフ会議.....	13
3-2 翻訳・通訳.....	8	9-5 その他.....	14
4 外国籍児童並びに成人への日本語指導			
4-1 日本語教室.....	10		

事業計画(案)15

事業計画一覧

キーワード

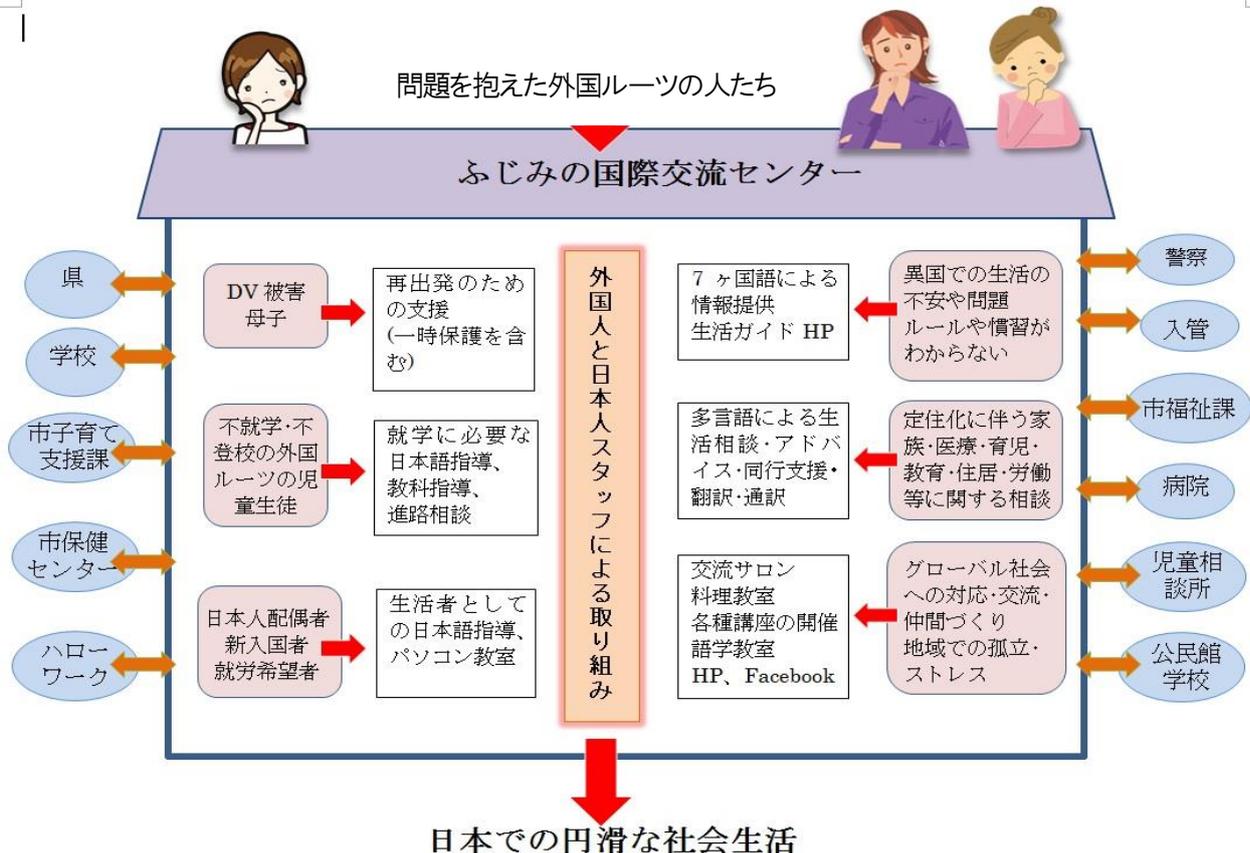
多文化が未来を拓く

ミッション

ふじみの国際交流センターは富士見市、ふじみ野市、三芳町ならびに周辺の地域に居住する外国ルーツの人たちの自立支援と、一般市民・団体との交流・協力活動を推進し、豊かな多文化共生社会の実現を目的とする。

ビジョン

子どもの教育	日本に暮らす外国ルーツの子ども達が、等しく教育を受け、基本的な知識を身に付け、夢を持って育ちゆくよう支援する
多言語情報	情報やコミュニケーション手段が不足していることで不利な状態に置かれている人に多言語や、やさしい日本語で情報を提供し、安心、安全な基本的生活を送るための支援をする
日本語支援	日本で生活していくために必要な日本語の学習を支援する 一人ひとりの状況や希望に合った学習内容を考え、より生活の幅が広がるよう支援する
生活相談	相談者の直面している困難に対応し、生活状態の向上につながるよう支援する
国際交流	日本人と外国人が互いの独自性に誇りを持ち、自由に考えを表現できる交流の場を作る
社会的役割	日本人と外国人が共に学びあい、育ちあう場所となる 外国人を取り巻く現状を伝え、多文化がもたらす豊かさと課題を社会に発信する



2018年度(平成30年度)半期 事業報告

事業名	事業内容	実施日程・回数	実施場所	従事者	受益者	支出額(千円)
外国人の人権擁護と自立支援	生活相談	通年	FICEC、富士見市役所	10名	220件	1,224
	シェルター	通年	FICEC	10名	0名	
	DV講習会・生活相談勉強会	3回	埼玉県庁ほか	1名	300名	
	パソコン教室	第2・4木曜日 22回	FICEC	2名	延61名	
国際理解教育と国際交流の推進	国際理解講座・イベント	12回	大学、社協 他	3名	約1,000名	226
	国際交流サロン	7回	FICEC 他	5名	約200名	
	大学との協働	1大学	大学・県NPO活動推進課	5名	延45名	
	語学教室	30回	FICEC	2名	延150名	
多言語情報の収集と提供	生活情報誌の発行	6回 2100部	FICEC	13名	12万人	1,531
	生活ガイドHP維持管理	必要に応じて	FICEC	8名		
	翻訳・通訳	157件	FICEC、県内	89名	埼玉県民	
	出版、編集	必要に応じて	FICEC他	6名	埼玉県民	
外国籍児童並びに成人への日本語指導	日本語教室	木曜日を中心に通年	FICEC	11名	延220名	13
子どもの健全育成	国際子どもクラブ	土曜日を中心に通年	FICEC	延286名	延400名	59
まちづくりの推進	行政との協働事業	通年	県内	30名	埼玉県民	0
NPOへの助言・援助	NGO・NPO・協力ネットワーク	5回	県内	2名	埼玉県民	0
その他この法人の目的を達成するために必要な事業	機関誌の発行	2回 1,000部	FICEC	11名	3,000人	1,711
	ホームページ・Facebook	随時	FICEC	3名	約28万件	

《総括報告》

監事さんの指導で、22年間続けてきた4月から翌年3月までの事業年度を、10月から翌年9月に変更することにした。その期間調整のために今期は4月から9月の6ヶ月を1活動期間とした。

昨年度の215万円の赤字決算を定期預金を取り崩してスタートした6ヶ月であった。生活相談・日本語教室・子どもクラブ・多言語情報の提供の総てを無償で続けて来られたのはシェルター収入があったからなのだと思いきや愕然として、それに代わる収入を得る方法をみんなで考えた6ヶ月だったと思う。新規事業はないか、節約できる費用はないか、毎日その話題で知恵を巡らし、考えを言い合った。FICECの持っているスキルを生かして全州市町から翻訳業務をもらおうと、67市町全部に「A4一枚3,000円で翻訳する」旨を伝える広告チラシを送付した。こんな時、真剣に考えてくれる仲間がいることがありがたく、どんなことをしてでもFICECの事業を継続しなければと、皆で再確認した。収入の見込める新規事業を開拓する難しさを実感している。半年が過ぎ決算書を見ると3万円の黒字。たった3万円ではあるが、黒字になってほっとしている。

加えて、今期の重大課題は、埼玉県指定・認定特定非営利活動法人になって丸5年が過ぎ、再審の申請をするための事務処理に莫大な時間と労力がかかったこと。事務担当のスタッフは、活動時間の大半をそのために費やした。継続可能の通知は9月末時点でまだ届いていないが、認定NPOとして活動を続けていけたらと願っている。

1つ、嬉しかったことは、宝くじ組合から助成を受け、同行通訳を無料で実施することができたこと。理想は神奈川県のみ。埼玉県も少しでもミックに近づけたら、在住外国人とのトラブルが激減すると思う。
(文責：石井ナナエ)

1 外国籍等市民の人権擁護と自立支援

■1-1 生活相談

求人倍率が1.6倍になり、日本語が不十分な外国人も就労が可能になり家計が安定したせいか、猛暑日が多かったせいか、生活相談件数が激減した。その代わりに、定住・永住者として日本人に準じた相談者が増えている。1980年の後半から急増した年の差婚の日本人夫が高齢になり、遺族年金や退職金、痴呆やアスペルガー、お墓や遺言の相談まで来ている。そうすると生活相談スタッフは保険・医療・財産・法律総てに精通していなければならない、関係機関に電話で尋ねたり、インターネットで調べたりして、相談に応じている。

■1-1-2 富士見市出張生活相談室

生活相談室には外国人がさまざまな理由で相談に訪れます。今や、多地域に渡って外国人が増えている現実がある。それにともない日本語や文化に不慣れな外国人を地域社会や行政につなぐお手伝いをしているのが、この富士見市出張生活相談室だ。

人種、言語を問わず私たちと同じように生活をし、家族や友人を大切に一生懸命に生きている。問題はたった一つでもそれから派生するものは教育、福祉、医療、金銭、法律等と、対処する問題は多面に広がる。生活相談室は外国人の問題に寄り添って、そして、より安心して暮らせるようお手伝いをしている。そういう意味では富士見市役所内に生活相談室があることは、行政側にとっても現場の声を聞く「場」があり大変いいことではないかと思う。

ふじみの国際交流センター発行の「外国人生活相談入門書」に相談員のつぶやきという欄があるが、そこには「認知症の中国人に中国の歌を歌ってあげたとき、子どものように喜んでくれたこと」「通訳したことで言い争っていた母子の誤解が解け、仲良くなったこと」「生活保護を受けても、一生懸命パートをしてはたらいっている。自立しようという意識がうれしい」「日本語を教えていた生徒が高校入学できたこと」など感動のコメントが掲載されている。

最近「国際交流」を乗り越えて、むしろ「共生」という言葉がぴったりくる日本になりつつある。生活相談室はこれからもがんばり続けようと思う。

2018年度(平成30年度)中に受けた相談内容の内訳

医療	医療費、病院へ同行（入院手続き等）、うつ、アルコール依存	18
家族	離婚、夫婦トラブル、交際相手、DV、子ども	31
教育	日本語支援、学習支援、入園・入学手続き、学校との連絡	66
言語	日本語指導、翻訳、通訳、代筆	18
司法	税金、犯罪、裁判所・法務局への同行・支援、子どもの国籍	7
住居	住まい探し、引越しの手伝い	9
生活	生活費、生活保護、友達・近隣関係、国民年金・国民健康保険手続き	47
入管	ビザ、在留カード申請・更新、帰化、帰国、保証人	15
労働	求職、会社とのトラブル、技能修得、労働災害、労災保険	9
合計		220件

※継続的に対応している日本語支援や学習支援は1人につき、1回/月として集計

相談者の国籍 (ルーツを含む)

フィリピン	66
中国	56
日本	27
韓国	25
パキスタン	14
ネパール	9
カメルーン	4
キューバ	3
コロンビア	3
台湾	3
その他	10
計	220件

外国人担当行政職員、
外国人関係施設担当者、
日本人配偶者、
日本人の知り合いなど

その他の国籍

アメリカ、ガーナ、
ジャマイカ、スリラン
カ、タイ、チュニジア、
ナイジェリア、ブラジ
ル、ペルー、モンゴル

相談者の住所

ふじみ野市	114
富士見市	48
川越市	12
三芳町	12
東京都	8
朝霞市	6
さいたま市	5
和光市	3
その他	12
計	220件

県内7市町10件
不明2件

■1-2 シェルター

シェルター利用者が途絶えて2年になる。DVで悩む母子がいなくなったことは良いことだと思うが、シェルターを運営し、県から事業委託費を頂き、その収入で事業の大半を運営している FICEC にとっては経済的窮地に陥っている。利用はなくても家賃・携帯電話代・水道光熱費などの基本料金は払わなければならない。シェルターの重要性は十分理解しながらも、背に腹はかえられず、2019年3月末までに入居者がいなかったらシェルターは閉鎖しようと決めている。

■1-2-2 継続支援

シェルターを退去したあとのDV被害母子が安全に生活し、仕事を心得て自立した生活を継続するためのサポートを、埼玉県から委託を受けて実施している。シェルター入居者がゼロであることに重ねて、アパートに転宅したあとのDV被害者からの相談も激減している。経済が安定しているためか、彼女たち自身が母子だけの生活に慣れてきたせいも、泣きついて来る人が少なかった。

それとは反対に「シェルターを出たばかりの時は生活保護費で暮らしていたけれど、先月から正社員になって生活保護から抜けました」と嬉しい連絡を入れてくれる人が増えた。

外国人は法律で生活保護の受給が保証されているわけではないので、保護から抜け出したと聞くとほっとする。日本語が不十分な彼女たちが、不景気になっても仕事が続けられるか、DVを見て育った子供たちがトラウマから抜け出して健全に育つか、心配は尽きないが、みんなに強く生きてほしい。

■1-3 DV講習会・生活相談勉強会

国や県・市が主催する無料講座には積極的に参加し、社会の動きを学習することも生活相談スタッフにとっては大切な

福祉学習会（全6回）	ふじみ野市役所
7/27埼玉県人権教育実践報告会	東松山文化センター
文化庁日本語大会（全2回）	文化庁

ことである。月2回開かれるスタッフ会議でもQ&A形式で、誰もが生活相談に応じられるように勉強している。日常の生活の中でも外国人に関する新聞記事があると、誰かが切り取ってきてくれて、みんなに回覧している。めまぐるしく変わる入管法・DV法・民法。「難しい。難しい」と言いながらも、学び合いを通してスタッフ同士の理解を深めるとともに、活動に役立っている。

■1-4 パソコン教室

例年通りの外国人枠・スタッフ・日本人枠の3ブロック体制で行いました。受講者のレベルもかなり向上している。平成31年度も外国人の新規受講者を増やし、より幅広い方々のパソコン修得に役立つようにサポートしていきたい。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
外国人	4	5	7	7	5	5	33人
日本人	4	4	5	4	5	6	28人
合計	8	9	12	11	10	11	61人



パソコン教室

■2-1 国際交流と国際理解講座

①国際交流



パキスタン料理の日

4/14	フィリピン、アキノ先生をお迎えして	FICEC
6/13	島根県国際課職員との交流	FICEC
6/27	中国料理 餃子	ピアザ
7/28	ふじみ野地域の多文化共生と関係機関との連携	FICEC
8/16	パキスタン料 2 色のカレー	ピアザ
9/7	台湾の大根餅をつくろう	西公民館
9/9	富士見市国際フォーラム	キラリ富士見

「ふじみの国際交流センター」は名前にも書いてあるように、国際交流をする事からすべてが始まる。交流を通じて FICEC が外国人と地域の住民を楽しませる役割を負い、FICEC の仕事にも楽しさを入れて、もっと沢山の人がとに知ってもらおう事を大切にしている。

平成 30 年度の上半期では 2 回料理教室が行なわれた。近くの小籠包のお店の方から餃子の皮の作り方から習った。パキスタン料理教室ではいろいろな本場の香辛料を混ぜて、10 人家族のお母さんからパキスタン家庭の味を教えてもらった。

2 人の講師は日本語に慣れてなくて、始まる前にとっても心配していたが、始まるとだんだん自信がついて楽しんでいった。外国へ来ても国と家庭の味を守り続ける外国人お母さんならではの交流会だった。

西公民館祭りで販売するための「大根餅」を台湾スタッフを中心に近くの台湾の方々と一緒に作った。その後、台湾料理を作って小さなパーティをした。

これからは交流の幅を広げて、もっと沢山の人が参加できる交流会を増やしていきたいと思う。

②国際理解講座

毎年のように「外国人の実情を話してください」と注文して下さるところが増えた。行政に課せられている人権講座の中に「外国人の人権」が設けられる市が増えた事や、テレビや新聞でも外国人の話題を取り上げる機会が増えたためだと思う。外国人がますます急増することが予想される現在、5%、10%と増える前に一人ひとりが多文化共生について考え、地域でのトラブルを防ぎ、日本人も外国人も安心して暮らせるように、両方の立場に立って外国人の実情を話していきたい。

4/20	国際交流と NPO	獨協大学
5/8	外国人の人権	深谷介護学校
6/12	グローバルソシオロジー	文京学院大学
6/14	教育社会学・FICEC の活動	戸田市
6/27	社会福祉事業方法論	東京家政大学
6/30	外国人留学生のための防災	十文字大学
7/3	外国人の人権	所沢市松井公民館
7/7	地域の国際化	聖学院大学大学院
7/30	地域の国際化の実状	キラリ富士見
8/30	地域の外国人の状況	埼玉県社会福祉協議会
9/10	外国人の生活支援	戸田社会福祉協議会
9/13	老後を楽しく生きる会	志木パルシティー

■2-2 大学との協働

FICEC 日本語教室と日本工業大学との共同による「外国人向け日本語ソフトの開発」

<p>1 「簡単に覚えられる漢字の書き方」 漢字の習得はなかなか進まないもの。進捗を進めるために漢字を生き物のように静から動へとビジュアルに訴えて理解を進めさせるよう工夫したもの。</p>
<p>2 「スマートフォン対応の漢字練習帳」 漢字練習の大人バージョン。時間が有ればどこでも学べるようスマートフォンを使った漢字学習ソフトとなっている。</p>
<p>3 「日本語マスター…とりあえず街に出かけてみよう」 町中にある生活に必要な様々な施設とその使い方を示唆するもの。病院、銀行、郵便局、警察、駅等々、それぞれの使い方を簡単に説明、1 日でも早く生活に慣れてもらおうというソフト。日本語教室で大いに役立つことが予測される。</p>

日本工業大学情報工学科ソフトウェアデザインコースの専修コースとして、3 年生の課題研究共同開発が続けられてきた本企画も 5 年目となった。内容は外国人向け日本語ソフトの開発で、企画内容の変更はなく毎年次年度の 3 年生が先輩の研究分を改善する形で続けられている。6 月 7 日、新しく本企画を担当する日本工業大学の学生がセンターを訪れ、日本語教室の関係者と意見の交換を行った。本年の左記の 3 点、学生のコース選択で毎年変わるので、その都度、開発にかかわる内容の精度に改良が加えられ新しい発見がみられる。

■2-3 語学教室

- ・英語会話教室（毎週／曜日 12：30～13：30）ロシア人の先生が教え、毎週和やかに開かれている。
- ・中国語教室（毎週木曜日 9：30～11：30）南京出身の中国人の先生がレッスンをを行う。

3 多言語情報の収集と提供

■3-1 多言語情報誌「インフォメーションふじみの」

隔月刊も少し定着してきたようだ。しかし本来身近で、リアルタイムに提供する 2 市 1 町の生活情報が、時間的な制約により話題を拾うことが困難な状況は変わっていない。今後は企画検討により腐心するよう検討していきたい。富士見市では「広報 ふじみ」に数年前から本誌内容の紹介をいただいております、本年も引き続き掲載いただいた。庁内においても関係部署に配布されている。

- 翻訳言語〔中国語、英語、韓国語、ポルトガル語、タガログ語、スペイン語、日本語〕
- 発行回数〔隔月刊 今期は 6 ヶ月のため 3 回〕、発行部数〔1000 部〕
- 配布場所〔国際関係機関や 2 市 1 町の公的機関、日本語版のみ FICEC 全会員に郵送している。日本語教室学習者にも配布〕



227 号 4,5,6 月号	埼玉県では平成 30 年 4 月 1 日から自転車損害保険への加入が義務となりました
	<ul style="list-style-type: none"> ・新しく便利になった富士見市中央図書館 ・日本語勉強のスタート「ひらがなのれんしゅう」 ・日本語を勉強中のみなさんへ「先輩からのアドバイス①」 ・韓国料理教室

228号 7,8月号	技能実習生の日本滞在期間が条件付きで延長されそうです
	・同行通訳有償ボランティアを募集します ・夏休み、ふじみの国際子どもクラブがお待ちしています ・募集中—お国自慢の料理を教えてください ・ふじみ野市外国語版生活ガイドブック ・日本語を勉強中のみなさんへ「先輩からのアドバイス②」
229号 9,10月号	住民税を払っていないとビザがとれないこともあります
	・都道府県の最低賃金（9月現在）を知っていますか ・富士見市国際フォーラム「外国の方と話そう」 ・日本語を勉強中の皆さんへ「先輩からのアドバイス—③」

■3-2 翻訳・通訳

①翻訳

合計件数／80件、昨年度4月から9月までの合計が71件であったので去年比113%。

翻訳内容／出生証明書・婚姻証明書・独身証明書・戸籍謄本・配偶者呼び寄せの為の手紙・住民票その他多岐にわたる。翻訳依頼者の国籍は相変わらずフィリピンが一番多いが、ネパールも増えてきた。

・国籍別依頼件数

フィリピン	47
ネパール	8
日本	8
中国	4
スリランカ	4
韓国	2
その他	7
計	80

・翻訳内容

出生証明書	22
婚姻証明書	18
手紙	7
ラブストーリー	3
医療	2
弁護士関係	2
卒業証明書	1
家族関係証明書	3
宣誓供述書	2
住民票	3
戸籍謄本	3
独身証明書	3
その他	11
計	80

・翻訳の種類

英語から日本語へ	53
日本語から英語へ	12
中国語から日本語へ	3
韓国語から日本語へ	2
ポルトガル語から日本語へ	2
タガログ語から英語へ	2
日本語から中国語へ	1
タガログ語から日本語へ	1
その他	4
計	80

②通訳

5/23	埼玉県庁との話し合い	埼玉県庁
	通訳研修会〔全10回〕	FICEC
7/28	MIC かながわ視察訪問	神奈川県
8/27	病院訪問	埼玉医大
9/3		イムス富士見・イム三芳
9/7		上福岡総合病院・志木中央病院
9/12		赤心堂・埼玉病院

通訳研修



同行通訳をシステムとして作り上げていくことは、かねてからの悲願であった。

今年度は一般財団法人自治総合センター（宝くじ組合）から、一年度限りではあるが、同行通訳システムの構築を目的として110万円の助成金を受けることができ、システムの確立に向けた一歩となるよう、同行通訳事業を実施した。

【事業実施の概要】

事業の実施に当たっては、市役所、保健所、教育委員会等行政関係機関、および医療ソーシャルワーカー協会会長あてに事業の利用案内文書を送付するとともに、東上線沿線の近隣7医療機関を訪れ、PRを行った。通訳者の募集に当たっては埼玉県国際課へ協力依頼を行い、通訳登録者に対し延べ10回に分けて、事業の説明会・研修会を行った。このほか、同事業を先駆的に行っているNPO法人MICかながわ（横浜市）を視察し、助言を受けた。

また、以下を基本事項に据えた。

- 多様な言語に対応できるよう、通訳登録者を広く募る
- 地域は東上線沿線を中心に、県内であれば可能な範囲で対応する
- 通訳料は1回3,000円とし、交通費一律1,000円を加えて支払う
- 通訳者には通訳の基本的心得を身に付けていただく
- 研修の機会を設け、力量の向上を図る
- 宝くじ助成事業が終了した後は、有料となり、利用関係機関または受益外国人の負担となる旨の周知を図る



同行通訳反省会

〈登録通訳者数〉69名（平成30年9月30日現在）17カ国言語

〈同行通訳実施件数〉77件（平成30年9月30日現在）

・分野別

医療機関 25 教育機関 6 児童相談所・保育室など 6 警察・交番 3 税務署 3 市役所・年金事務所 7 弁護士事務所 1 FICEC 20 その他 6

・言語別

英語 35 中国語 26 フィリピン語 7 韓国語 3

スペイン語、ネパール語、パキスタン語、フランス語、ベトナム語、ポルトガル語 各1

〈今後の課題〉

- ・需要の多い東南アジアをはじめとする多様な言語に対応できるよう、さらに広い分野から通訳者を募る必要がある。
- ・特に医療分野での通訳では、自信をもって通訳に臨めるよう、体系的なプログラムを作成し、研修を充実させていかなければならない。
- ・関係機関による予算化につなげるには実績を積み、この事業の有用性が認知される必要がある。次年度も同行通訳事業を継続するために、宝くじ助成終了後も引き続き各種財団助成金へ積極的に応募する等、財源の確保が不可欠である。

4 外国籍児童並びに成人への日本語指導

■ 4-1 日本語教室

本年度中旬から学習者は少しずつ増加。前年度は 56 日で平均 6.1 人だったが、本年度は 25 日で平均 8.8 人と多少の増加といえる。またボランティアの数も安定的に対応できているが、受講生の集中傾向もありボランティアの増員も考慮に入れる必要も感じている。

① 学習概要と学習者

学習曜日・時間	毎週木曜日 10:00～12:00（祝日、お盆 8/13～15、年末年始 12/28～1/5 は休み）
開講回数	25 回
学習者数	延べ 220 人 平均 8.8 人 最高 13 人／回 最低 5 人／回 参加国 12 カ国

国別学習者多い順（延べ人数で集計）

中国・フィリピン・韓国・ヴェトナム・ネパール・エルサルバドル

② 日本文化を味わってもらう事業

季節を追って開催する企画で、日本の伝統行事を取り入れ、少しでも日本の心を理解してもらえたらと実施している。今期は恒例の行事が少ない時期に当たったため 1 回のみで、4 月 26 日の端午の節句では華麗な人形が飾られ、琴の名演奏などに並行し琴の体験などを実施できた。今後は、1 年に 1 回くらいは外国籍の学習者の演出による行事なども取り入れたい。



お琴の体験

③ 二市一町日本語教室ボランティアネットワーク（東上線沿線日本語教室連絡会）

和光市からふじみ野市地域の東上線沿線日本語教室の連帯を強め、近隣のボランティア団体と手を携え情報交換をしようと始まった連絡会。今年度は 1 回の開催となった。

開催日／7 月 8 日（日） 幹事〔和光国際交流会〕会場〔和光市本町地域センター〕

各教室が多忙という点を考え 10 月以降は半年毎の実施となった。回数は減ったが今後推進する柱を公的機関による「外国人市民をサポートする日本語教室の設置」をテーマとして、行政が公的な位置づけで日本語教室の場所を確保できるよう、継続アピールすることとした。

・参加団体〔朝霞インターナショナルソサイエティー（AIS）、大井親子日本語教室、新座日本語の会、ふじみの国際交流センター日本語教室、三芳日本語教室藤久保、和光国際交流会〕



■5-1 国際子どもクラブ

① 参加者

●平日

・中学校へ転学する前の日本語学習者／1名(2週間)

・春期、夏期休業中の課題学習者
／ 高校生 2名、大学生 1名

・高校入学希望者／ 1名(7,8月)

●土曜日

・小学生の参加者が増えた。

・夏休みの学習参加者は少なかった。旅行に行く生徒や、学習塾に参加する生徒が増えた。

●その他の取り組み・支援者数／ 14名(学生 3名 社会人 11名)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
平日	生徒数	6	11	7	26	25	9	85人
	支援者	4	11	8	19	22	8	72人
	計	10	25	15	45	47	17	157人
土曜日	生徒数	62	40	59	67	36	63	315人
	支援者	42	27	42	36	26	47	214人
	計	104	67	101	103	62	110	629人

②学習者のルーツ

中国	16人	フィリピン	16人	ネパール	4人
スリランカ	2人	パキスタン	2人	コスタリカ	1人
ベトナム	1人	アメリカ	2人		

③課題

- ・中学生は、学校に慣れてくると部活動に参加するため、子どもクラブに参加しなくなる。そのため、中学3年生の秋から受験の準備をするので、学習時間が足りないことが多い。高校受験の支援をしたいが、進学を望まない生徒も多い。
- ・小学生は、学校に慣れ、授業内容が理解できるようになると、いったん子どもクラブから離れる子が多い。

6 外国人への緊急時対策

平成30年度、外国人への緊急時対策事業はありません

7 まちづくりの推進

■7-1 行政との協働事業

1) ふじみ野市・富士見市・三芳町

「外国人生活相談窓口業務」を受託(参照 1-1)

「外国籍市民のための生活ガイドホームページ維持管理業務」
を受託(参照 3-2)

2) ふじみ野市

・生活ガイドブック更新事業(英語・中国語・韓国語・タガログ語・ポルトガル語)受託

3) 富士見市

富士見市国際交流フォーラム
出張生活相談



富士見市国際交流フォーラム
バンブーダンス

4) 三芳町

5/16	子ども大学みよし 実行委員会第1回	淑徳大学
6/30	子ども大学みよし第1回 入学式	淑徳大学
7/21	子ども大学みよし第2回	中央公民館
8/18	子ども大学みよし第3回 ○○も知らない!?ラジオの世界	きずなステーション

■7-2 行政関係会議・関係事業

開設 23 年目を向かえ、処々方々の会議への参画を依頼されるようになった。県や市の施策がよく分かり、外国人支援 NPO としての意見を反映できるのは、ふじみの国際交流センターのあり方にも大いにプラスになっている。在住外国人が 2.2%を

	要保護児童対策審議会（全4回）	ふじみ野市役所
7/4	ふじみ野市男女共同参画推進審議会	ふじみ野市役所
7/9	埼玉県人権教育推進協議会	県民健康センター
7/23	夜間中学検討会	県民健康センター
7/31	埼玉県多文化共生推進会議	衛生会館
9/14	埼玉県DV連携会議	教育会館
9/18	DV被害者支援団体交流会	教育会館

占めるようになって、どの会議でも外国人に関する問題や課題が取り上げられるようになった。外国人支援者の立場としてはその度に、「まだ日本語指導の制度がないからです」や「日本語の読み書きが不十分なので、地域の習慣や決まりがわからないからです」など外国人の実情を話して聞いてもらっている。日本で暮らす外国人の生活を考えてくれる審議会の発会を希望している。

8 NPO への助言・援助

■8-1 NGO・NPO・協力ネットワーク

さいたま NGO ネット [場所:コムナーレ 9F]

4/18	総会・定例会・勉強会
5/16	定例会
6/12	定例会・勉強会
7/17	NPO 法人設立総会・勉強会
9/14	定例会

さいたま NPO ネットには 5 つの NPO と 10 の NGO によって構成されていたが、今年 7 月、全体が 1 つの NPO として登録許可された。小さな NGO だけでは活動の範囲も狭く、経済的にもきびしいことが理由で今後は JICA 等との交渉が有利になると考えての決断だった。これによって FICEC は独自の NPO でもあり、NPO 法人さいたま NPO ネットの中の 1 つの団体でもあるといえる。

9 その他この法人の目的を達成するために必要な事業

■9-1 機関誌「ハローフレンズ」

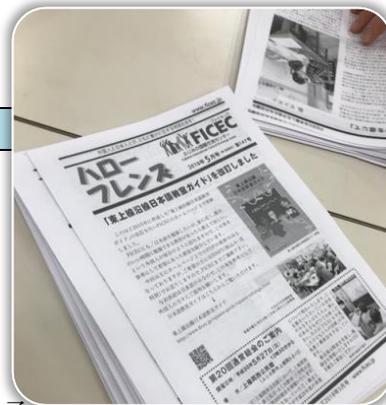
2018 年 5/号 (第 147 号)

- 「東上線沿線日本語教室ガイド」を改訂しました
- 高校入学おめでとう 大学入学おめでとう [国際子どもクラブ]
- FICEC を卒業した子どもたちの活躍 9 [張ピンピンさん]
- スタッフ紹介「外国人」であるからこそできるケア [安 銀柱]

- 私のお国自慢「南京 鴨子（ヤーツ）料理は食べ過ぎに注意！」 [江 科]
- この方も FICEC の活動を応援してくださっています [太田 政男さん]
- 見送りの三振より空振りの三振 PART2 ●国際理解講座
- 「やさしい日本語」を知っていますか
- インフォメーション／最近の Facebook から

2018年9月号（第148号）

- 「センター大ピンチ」
- 夏休みの《国際子どもクラブ》、コミュニティラジオ「発するFM」
- 同行通訳開始！只今依頼受付中！
- いつも応援しています「私と FICEC」中村禎作さん
- 見送りの三振より空振りの三振 PART2
- 第20回総会が開かれました ●スタッフ紹介〔室井伸幸〕
- 私のお国自慢「子どもの頃の思い出を蘇らせてくれる島」〔野沢弘子〕
- 最近の Facebook から



■9-2 ホームページ・Facebook

HPでは、「インフォメーションふじみの」と「ハローフレンド」の最新号をPDFで掲載している。また2015年に制作した「東上線沿線日本語教室ガイド」の情報をリニューアルし、新しいPDFを掲載してその旨、告知を行った。

Facebookも引き続き、センターの日々の様子やイベントの告知などを写真とともに伝えている。



■9-3 FICEC 利用

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
開館日数		26	27	30	28	30	26	167
来訪者	外国人	168	147	163	189	153	164	984
	日本人	73	68	121	92	65	75	494
	小計	241	215	284	281	218	239	1478
スタッフ	外国人	34	42	41	46	32	33	228
	日本人	135	148	166	158	145	150	902
	小計	169	190	207	204	177	183	1130
合計		410	405	491	485	395	422	2608

■9-4 総会・理事会・スタッフ会議

4/10	第1回 スタッフ会議	①本年度の各事業の活動計画 ②フィリピンのアキノ校長による FICEC 視察	8人
4/25	第2回 スタッフ会議	①理事会報告 ②総会に2市1町首長出席 ③イオンイエローレシート報告 ④アキノ校長視察報告 ⑤事業活動について	7人
5/15	第3回 スタッフ会議	①2階の家賃について ②大島先生幹事継続について ③総会準備 ④コミュニティ FM ラジオでの FICEC PR ⑤宝くじ組合助成金による「県内通訳システム」の立ち上げについて	14人

5/27	総会		90人
5/27	第1回理事会	①新旧理事顔合わせ ②今年度理事会日程	10人
6/12	第4回 スタッフ会議	①ラジオ CM 作成報告 ②総会の反省 ③宝くじ組合助成金による「県内通訳システム」事業について ④上福岡七夕まつり参加について ⑤県知事への要望書提出 ⑥島根県国際課職員及び交流協会員の視察について ⑦オリンピック開催期間のホームステイ募集について	8人
7/10	第5回 スタッフ会議	①コミュニティ FM ラジオについて ②島根県国際課職員及び交流協会員の視察報告 ③同行通訳者募集について ④同行通訳依頼時の対処 ⑤埼玉県男女課視察 ⑥社会貢献賞表彰式報告 ⑦埼玉 NGO ネットのNPO化について ⑧英語翻訳依頼の増加について	11人
7/21	第2回 理事会	①知事への請願見直し ②今年度(4/～9/)の仮決算と次年度(30年10/～31年9/)予算と対策 ③総会について ④次年度理事改選について ⑤認定NPOと埼玉県指定NPOの更新手続き	11人
7/24	第6回 スタッフ会議	①理事会報告 ②総会について ③各プロジェクトの活動状況 ④シェルター事業に替わる新事業について	8人
8/28	第7回 スタッフ会議	①イオンレシートキャンペーンの参加について ②パキスタン料理教室報告 ③総会について ④各プロジェクトの活動状況 ⑤新規事業について ⑥富士見市国際フォーラムに ⑦パソコン助成申請 ⑧2階2室の使用について	11人
9/16	第3回 理事会	①平成31年度予算の検討 ②理事就任(重任)について ③総会の役割分担 ④文化庁の要求〔在住外国人向け日本語教育の充実〕について ⑤シェルター契約解消に伴う電化製品の廃棄処分について	10人
9/25	第8回スタッ フ会議	①各事業の活動状況 ②富士見市国際フォーラム反省と感想 ③西公祭り反省と感想 ④理事会報告 ⑤平成30年度予算案 ⑥総会の企画 ⑦スタッフ会議開催曜日の検討	12人

■9-5 その他

5/27	29年度 FICEC 総会	西公民館
5/30	東入間地区遊技業防犯協力 会贈呈式	しょうざん大穀
6/21	シェルター視察	FICEC
7/6	社会貢献賞授賞式	帝国ホテル
9/29	NPO と労働組合	所沢子ども未来館



ボランティア交流会

2019 年度(平成 31 年度) 事業計画案

13 万円の黒字決算で始まった FICEC の事業実施に当たり、今年度もいかにして経済を立て直すかを考えることが最重要課題になると思う。知恵と度胸と粘り強さと思考の転換が試されている。戦々恐々、五里霧中ではあるが、皆で支え合いながら、周りの人たちの協力も得ながら在住外国人支援を続けていきたい。

(文責：石井ナナエ)

	事業内容	実施日程・回数	実施場所	従事者	受益者
外国人の人権擁護と自立支援	生活相談	通年	FICEC、富士見市役所	10 名	500 件
	シェルター	通年	FICEC	10 名	延 50 名
	DV 講習会・生活相談勉強会	10 回	FICEC、県内	10 名	150 名
	パソコン教室	第 2・4 木曜日 24 回	FICEC	2 名	延 150 名
国際理解と国際交流の推進	国際理解講座	30 回	大学・市役所ほか	3 名	4,000 名
	国際交流サロン	5 回	FICEC	6 名	500 名
	大学との協働	1 大学	FICEC、県内	2 名	50 名
多言語情報の収集と提供	生活情報誌の発行	6 回 3,000 部	FICEC	13 名	5 万人
	生活ガイド HP 維持管理	3 回	FICEC	8 名	45 万人
	翻訳・通訳	随時	FICEC	60 名	埼玉県民
	出版、編集	随時	FICEC	10 名	埼玉県民
外国人児童及び成人への日本語学習支援	日本語教室	木曜日	FICEC	12 名	延 300 名
子どもの健全育成	国際子どもクラブ	土曜日、平日 4 回	FICEC	15 名	延 1,000 名
まちづくりの推進	行政との協働事業	通年	県内	20 名	埼玉県民
NPO への助言・援助	NGO・NPO・協力ネットワーク	10 回	県内	2 名	埼玉県民
その他	機関誌の発行	年 4 回	FICEC	10 名	3,000 部
	ホームページ Facebook	随時	FICEC	8 名	40 万人



「FICEC を卒業した子どもたち」写真展

■生活相談

広範囲に及ぶ相談に対応できるように、スタッフ会議を生かして研修に励み「家族ではないけれど、信頼できる他人」として活動を続けたい。

また経済状態を鑑み、業務委託を受けている富士見市・ふじみ野市・三芳町以外の人からの相談には「ワンコイン相談所」と銘打って100円ぐらいもらうようになるかもしれない。

■シェルター

2019年3月までに入居者が来なかった場合は、断腸の思いではあるが、閉鎖せざるをえないだろう。

■同行通訳

宝くじ組合からの助成事業が3月で終わる。できれば引き続き通訳派遣ができるように「埼玉県国際交流協会」に助成金の申請をすると共に、他の助成金募集制度を洗い出して申請してみようと思っている。

■生活情報誌「インフォメーションふじみの」

- ①隔月刊で発行のため、全国的・政治的なテーマの対応は可能になっているが、地域生活情報誌としての役割は希薄になっている。
- ②FICECの組織の有りようにもつながると思うが、各部署で年間を通した企画の立案も増強することも必要と考える。
- ③オリジナルの表紙デザインは、毎月力作をいただく日本語教室のボランティア林さんに引き続きお願いすることとなっているが、企画の一つに「インフォ表紙画展」を催し、FICECの存在とPRを兼ねた企画はどうだろうか。企画の幅を持たせるための「教室」的な考えも視野に入れたい。
- ④編集方針は変わらないが、企画内容をセンターの認知度を加速するために、スタッフ会議の定例議題としてインフォ企画の検討をお願いしたい。



「インフォメーションふじみの」表紙

■「日本語教室」

- ①今後予測できる学習者の増加に対応して、以前実施したようなカリキュラムの日本語ボランティア養成講座の開催を模索したい。企画として新味のあるものではないが、助成金の対象になる提案ができる場所も探したい。
- ②可能な限り今年から課外授業ができないかと思う。勉強だけではなく日本人と外に出て触れ合うことで日本語に慣れるようにという企画もあってよいのではないかと。出来れば予算化もしたいが・・・
- ③季節のイベントに、学習者の参加を呼び掛け、母国のイベントを紹介していただく。センター内での話題作りで盛り上がりを試行したい。日本語教室時間延長も視野に入れながら実施出来ると話題作りにも役立つのではないかと。

■日本工業大学との協働による学習ソフトの開発

本企画は3年生の研究課題として開発が続いている。年が変わるごとに新しい3年生が、企画を引き継いで完成を目指すという方式をとっている。企画内容については今期より教育漢字 20 字が加わったので、その分の増加が作業の中心になろうかと思う。本年は、完成品を入手して、実際に学習者に使用させてみたい。なお、今後も大学との協働事業として開発をお願いできるのであれば、日本語教室という範疇から脱皮したセンターの主軸となるようなソフトの開発も考えられないか。他教室の情報を参考にしたい。

■国際子どもクラブ

1. 中学及び高校3年生計4名が、それぞれ希望の学校に進学できるように支援する。
2. 国際子どもクラブで学ぶ生徒達が、国籍や学年を超えて、友達になれるような取り組みがしたい。



国際子どもクラブ

埼玉県指定・認定特定非営利活動法人
ふじみの国際交流センター

理事長 石井ナナエ

〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡 5-4-25
TEL: 049-256-4290 FAX: 049-256-4291 URL://www.ficec.jp/